



ひと、暮らし、みらいのために

宮城労働局

Miyagi Labour Bureau

<https://isite.mhlw.go.jp/miyagi-roudoukyoku/>

Press Release

宮城労働局発表
令和5年12月4日

報道関係者各位

【照会先】

宮城労働局労働基準部健康安全課
健康安全課長 高橋 喜治
主任地方産業安全専門官 熊谷 昭彦
課長補佐 増川 賢一
(電話) 022-299-8839

宮城労働局長による「年末公開安全衛生パトロール」を実施します ～12月に東北6労働局の局長が現場のパトロールを実施～

宮城労働局（局長 竹内 ^{あきら} 聡）では、令和5年度「宮城年末年始労働災害防止強化運動」（令和5年12月1日から令和6年1月31日まで）実施期間中、労働局長による年末公開安全衛生パトロールを下記により実施します。

年末年始の時期は、業務の繁忙や積雪、凍結等の作業環境の悪化による労働災害の発生も懸念されることから、これらについて広く注意を喚起し、労働災害防止への機運醸成を図ることを目的とします。

なお、本パトロールは、東北6労働局が一斉に実施するものであり、各局の概要は資料2のとおりです。

記

- 1 日 時：令和5年12月13日（水）午後1時30分～午後3時20分（予定）
- 2 対象現場について
 - （1）工事名称：川内沢ダム本体工事
 - （2）施工者：西松・奥田・グリーン企画特定建設工事共同企業体
 - （3）所在地：宮城県名取市愛島笠島字西南沢 93-1
 - （4）工事概要：資料1参照

3 集合時刻及び場所

(1) 集合時刻：令和5年12月13日（水）午後1時15分

(2) 集合場所：上記工事現場 工事事務所 会議室

工事位置図



4 詳細について 資料3のとおり

【添付資料】

資料1：川内沢ダム本体工事 工事概要

資料2：東北6労働局長年末公開安全衛生パトロール概要

資料3：令和5年度年末公開安全衛生パトロール実施要領

資料4：令和5年労働災害発生状況（令和5年11月8日作成）

資料5：建設業における労働災害状況

※取材に当たっての留意事項（お願い）

(1) 取材をご希望される方は、事前に照会先あて電話又は電子メールによりご連絡ください。

(E Mail : kenkouanzenka-miyagikyoku@mhlw.go.jp)

(2) 当日は、午後1時15分までに現場内の工事事務所（名取市愛島笠島字西南沢 93-1）会議室にお集まりください。

(3) 保護帽（ヘルメット）をご持参ください。

(4) 靴は長靴（ゴム長靴、安全長靴等）を履いてください。

(5) 安全確保等のため、通路等からの逸脱、立入禁止箇所への侵入はご遠慮ください。現場工事関係者及び宮城労働局職員の指示に従ってくださいますようお願いいたします。

宮城労働局長 年末公開安全衛生パトロール
巡回ルート（予定）について

- 【1】 車にて、工事事務所から工事現場安全広場に移動
- 【2】 → 安全広場において、元請負人および下請負人の職長ほか約 70 名に対し、局長から激励
- 【3】 → 徒歩にて、上流仮設備ヤードに移動し、骨材貯蔵設備の基礎コンクリート構築作業（型枠・鉄筋・足場）およびコンクリート製造設備・セメント貯蔵設備の建方作業を確認
- 【4】 → 徒歩にて、ダムサイト上流に移動し、堤体基礎掘削工の重機作業を確認
- 【5】 → 徒歩にて、安全広場前駐車場に移動し、車で移動
- 【6】 → 車にて、左岸天端広場に移動し、右岸側（対岸）の基礎掘削作業を確認
- 【7】 → 車にて、工事事務所に移動

※ 巡回ルートは予定であり、当日の作業状況等、諸事情により変更することがあります。

川内沢ダム本体工事 工事概要

2023年12月13日(水)

西松・奥田・グリーン企画
特定建設工事共同企業体

川内沢ダムは、一級河川名取川水系川内沢川の上流、名取市愛島笠島地内に治水ダムとして建設するものです。ダムは、重力式コンクリートダムで、洪水調節及び流水の正常な機能の維持を目的としており、沿川地域の洪水被害の軽減を図ります。また、流水の正常な機能の維持として、10年に1度発生すると考えられる渇水に対して安定的なかんがい用水などを確保するとともに、河川環境を保全するための維持用水を補給します。

工事件名	川内沢ダム本体工事
工事場所	宮城県名取市愛島笠島地内
発注者	宮城県知事 村井嘉浩
施工者	西松・奥田・グリーン企画特定建設工事共同企業体
工期	2022（令和4）年10月20日 ～ 2026（令和8）年3月25日 【約41か月】

【工事内容】

形式	重力式コンクリートダム
堤高	39.7m
堤頂長	145.0m
堤体積	54,000m ³
基礎処理工	コンソリデーショングラウチング 一式、カーテングラウチング 一式
仮設工	コンクリート製造設備、骨材輸送設備、濁水処理設備他 一式



【完成イメージ図（下流より）】



【施工イメージ図（上流より）】

東北 6 労働局長 年末公開安全衛生パトロール概要

青森労働局（局長 井嶋 俊幸）

実施日時 令和 5 年 12 月 8 日（金）

工事名 （仮称）レーベン弘前中央通新築工事

所在地 青森県弘前市北瓦ヶ町 18 番地 6

問合せ先 青森労働局労働基準部健康安全課（電話：017-734-4113）

岩手労働局（局長 栗村 勝行）

実施日時 令和 5 年 12 月 8 日（金）

工事名 中ノ橋通一丁目地区第一種市街地再開発事業施設建築物
（西街区）新築工事

所在地 岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目 202-1 他 地内

問合せ先 岩手労働局労働基準部健康安全課（電話：019-604-3007）

宮城労働局（局長 竹内 聡）

実施日時 令和 5 年 12 月 13 日（水）

工事名 川内沢ダム本体工事

所在地 宮城県名取市愛島笠島字西南沢 93-1

問合せ先 宮城労働局労働基準部健康安全課（電話：022-299-8839）

秋田労働局（局長 山本 博之）

実施日時 令和 5 年 12 月 5 日（火）

工事名 千代田興業株式会社本社工場新築工事

所在地 秋田県秋田市飯島字古道下川端 219-11

問合せ先 秋田労働局労働基準部健康安全課（電話：018-862-6683）

山形労働局（局長 小林 学）

実施日時 令和 5 年 12 月 13 日（水）

工事名 （仮称）にしね保育所建築工事

所在地 山形県寒河江市大字西根字長面 170-1

問合せ先 山形労働局労働基準部健康安全課（電話：023-624-8223）

福島労働局（局長 井口真嘉）

実施日時 令和 5 年 12 月 7 日（木）

工事名 公益財団法人星総合病院 大町新複合施設（仮称）建設工事

所在地 福島県郡山市大町二丁目 1-16

問合せ先 福島労働局労働基準部健康安全課（電話：024-536-4603）

※詳細は、各労働局の担当部署あてお問い合わせください。

令和 5 年度年末公開安全衛生パトロール実施要領

宮城労働局

1 趣旨

令和 5 年度「宮城年末年始労働災害防止強化運動」（令和 5 年 12 月 1 日から令和 6 年 1 月 31 日まで）における実施事項として、安全衛生意識の向上及び安全管理活動の活性化、ひいては安全衛生管理水準を向上させ労働災害防止を推進することを目的に、労働局長がパトロールを実施するものである。

本パトロールは、東北 6 労働局が連携し、12 月 1 日から 15 日の期間中に各労働局で一斉に実施し、労働災害防止への一層の機運の醸成を図るものである。

なお、宮城労働局においては、建設工事関係者ゼロ災推進連絡会議（注 1）と連携して実施する。

（注 1）「建設工事関係者ゼロ災推進連絡会議」について

建設業における労働災害防止対策等に係る喫緊の課題を解消するために関係者が協議することを目的として、平成 30 年度から「建設工事関係者ゼロ災推進連絡会議」（事務局：宮城労働局）を設けており、その構成員は、宮城労働局、東北地方整備局、東北農政局、宮城県、建設業関係団体であり、構成員が協力して行う取組として、合同パトロールを実施することとしている。

2 主催者

宮城労働局

3 日 時

令和 5 年 12 月 13 日（水）午後 1 時 30 分から午後 3 時 20 分（予定）

4 パトロール対象工事現場

工 事 名：川内沢ダム本体工事

所 在 地：名取市愛島笠島字西南沢 93-1

施 工 者：西松・奥田・グリーン企画特定建設工事共同企業体

5 パトロール実施者

宮城労働局

仙台労働基準監督署

建設工事関係者ゼロ災推進連絡会議構成員

構成員：一般社団法人宮城県建設業協会

宮城県建設産業団体連合会

一般社団法人日本建設業連合会 東北支部

一般社団法人宮城県建設職組合連合会
 宮城県解体工事業協同組合
 建設業労働災害防止協会 宮城県支部
 国土交通省東北地方整備局 企画部技術管理課
 宮城県土木部 事業管理課

6 パトロール実施予定表

時刻	所要時間	内容	担当者	備考
(13:15~)		現場集合		工事事務所 会議室
13:30~13:40	10分	挨拶	宮城労働局・ 施工者	
13:40~13:45	5分	出席者紹介	司会	
13:45~14:00	15分	工事概要・作業状 況等の説明	施工者	
14:00~14:05	5分	パトロール注意事 項説明	司会	
14:05~15:00	55分	パトロール (移動時間を含む)		工事現場に移動
15:00~15:15	15分	総評	宮城労働局・仙台労働基準 監督署・建設工事関係者ゼ ロ災推進連絡会議構成員	工事事務所 会議室
15:15~15:20	5分	施工者回答	施工者	工事事務所 会議室
(~15:35)		解散		

令和5年労働災害発生状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

資料 4

令和5年11月8日 作成

宮城労働局

業種別	令和2年全期		令和3年全期		令和4年全期		令和4年 1月～10月		令和5年 1月～10月		前年同月増減			
	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	増減数	増減率	増減数	増減率
全産業	2370	15	2691	14	2567	15	1956	13	1899	18	-57	-2.9%	5	38.5%
製造業	464	5	485	1	440	4	334	4	320	4	-14	-4.2%		
食料品製造業	194	2	213	1	203		153		160		7	4.6%		
水産食料品製造業	72	2	86	1	65		46		57		11	23.9%		
その他	122		127		138		107		103		-4	-3.7%		
繊維工業、衣服その他の繊維製品製造	5		9		9		6		4		-2	-33.3%		
木材・木製品製造業	14		7		21	2	18	2	6	1	-12	-66.7%	-1	-50.0%
家具・装備品製造業			2		3		2				-2	-100.0%		
パルプ・紙・紙加工品製造業	5		8		13		8		3		-5	-62.5%		
印刷・製本業	10		10		2		2		5		3	150.0%		
化学工業	28		22		11		5		3		-2	-40.0%		
窯業土石製品製造業	25		16		21		15		15					
鉄鋼業、非鉄金属製造業	13	1	12		9	1	6	1	7		1	16.7%	-1	-100.0%
金属製品製造業	47		45		30		21		29	1	8	38.1%	1	
一般機械器具製造業	18		21		17		16		16					
電気機械器具製造業	19	2	38		34		26		24	1	-2	-7.7%	1	
輸送用機械等製造業	27		27		24		20		14	1	-6	-30.0%	1	
造船業	15		7		12		11		4	1	-7	-63.6%	1	
その他	12		20		12		9		10		1	11.1%		
電気・ガス・水道業	7		7		3		1		4		3	300.0%		
その他の製造業	52		48		40	1	35	1	30		-5	-14.3%	-1	-100.0%
鉱業	3		7	1	8		6		11	1	5	83.3%	1	
土石採取業	3		6	1	8		6		9	1	3	50.0%	1	
その他			1						2		2			
建設業	283	3	318	5	309	5	237	5	226	4	-11	-4.6%	-1	-20.0%
土木工事業	94	1	106	3	102	3	76	4	64		-12	-15.8%	-4	-100.0%
建築工事業	156	2	157	2	153	1	116	1	123	2	7	6.0%	1	100.0%
鉄骨・鉄筋コン造家屋建築工事	46	2	50	1	52		38		32		-6	-15.8%		
木造家屋建築工事業	59		67		58		44		42	1	-2	-4.5%	1	
建築設備工事業	19		18	1	12		9		9					
その他の建築工事業	32		22		31	1	25	1	40	1	15	60.0%		
その他の建設業	33		55		54	1	45		39	2	-6	-13.3%	2	
運輸交通業	337	2	428	3	363	2	294	2	281	1	-13	-4.4%	-1	-50.0%
鉄道・軌道・水運・航空業	4		8		7		6		3		-3	-50.0%		
道路旅客運送業	28		47		34		29		38		9	31.0%		
道路貨物運送業	305	2	372	3	319	2	255	2	238	1	-17	-6.7%	-1	-50.0%
その他の運輸交通業			1		3		4		2		-2	-50.0%		
貨物取扱業	16		24	1	23		20		15	1	-5	-25.0%	1	
陸上貨物取扱業	12		16	1	16		15		12	1	-3	-20.0%	1	
港湾運送業	4		8		7		5		3		-2	-40.0%		
農業	18	1	27		23	1	16		23		7	43.8%		
林業	31	2	33		24		19		27	1	8	42.1%	1	
畜産・水産業	25		22		33	1	26		26					
商業	412	1	490	3	497		392		327	3	-65	-16.6%	3	
卸売業、小売業	362	1	416	3	435		342		293	2	-49	-14.3%	2	
その他	50		74		62		50		34	1	-16	-32.0%	1	
金融・広告業	24		29		23		15		20		5	33.3%		
映画・演劇業	1		3		2		1		2		1	100.0%		
通信業	40		31		33		23		16		-7	-30.4%		
教育・研究業	30		35		43		30		33		3	10.0%		
保健衛生業	279		328		300		221		237		16	7.2%		
接客娯楽業	144		151		181		135		127	1	-8	-5.9%	1	
旅館業	31		26		35		28		29	1	1	3.6%	1	
ゴルフ場	9		7		13		11		4		-7	-63.6%		
その他	104		118		133		96		94		-2	-2.1%		
清掃・と畜業	117	1	130		154	1	113	1	111		-2	-1.8%	-1	-100.0%
ビルメンテナンス業	66		66		81		58		63		5	8.6%		
廃棄物処理業	42	1	50		63	1	47	1	36		-11	-23.4%	-1	-100.0%
その他	9		14		10		8		12		4	50.0%		
官公署	6		4		3		2		3		1	50.0%		
その他の事業	140		146		108	1	72	1	94	2	22	30.6%	1	100.0%
警備業	34		44		40		23		41		18	78.3%		
その他	106		102		68	1	49	1	53	2	4	8.2%	1	100.0%
陸上貨物運送業	317	2	388	4	335	2	270	2	250	2	-20	-7.4%		
第三次産業	1193	2	1347	3	1345	2	1004	2	970	6	-34	-3.4%	4	200.0%
小売業	299		348	3	358		281		246	1	-35	-12.5%	1	
飲食店	82		92		111		81		78		-3	-3.7%		
社会福祉施設	214		256		232		166		181		15	9.0%		

1. 死傷件数は令和5年10月末日までに発生した災害について令和5年11月7日までに確認できた労働者死傷病報告(休業4日以上)により計上しています。
 2. 死亡件数については、前月末までに把握したものの(速報)により計上しております。
 3. 陸上貨物運送業は、道路貨物運送業と陸上貨物取扱業の合計です。
 4. 第三次産業は、商業、金融・広告業、映画・演劇業、通信業、教育・研究業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃・と畜業、官公署、その他の事業の合計です。

令和5年 宮城県内における死亡災害発生の概要

令和5年11月8日 現在速報

番号	業種	労働者数	事故の型	発生状況
	発生月	時間帯	起因物	
1	その他の建築工事業 (3.2.9)	1～10人	はさまれ、巻き込まれ	勤務終了後事業場敷地内の構内道路を駐車場に向かって歩いていたら、交差点を横断中に左折してきたダンプトラックに轢かれたもの。
	1月	16時台	トラック	
2	その他の卸売業 (8.1.9)	10～49人	はさまれ、巻き込まれ	2トンドンプトラックで牡蠣殻の運搬作業中、ダンプトラックを降車後に逸走したダンプトラック轢かれたもの。
	1月	14時台	トラック	
3	金属製品製造業 (1.12.3)	10～49人	分類不能	作業場で金属製の架台の組立作業に従事していた。作業の様子を見に行ったところ、作業場内で頭部から出血し仰向けで倒れている被災者を発見したもの。
	1月	6時台	分類不能	
4	その他の建設業 (3.3.9)	50～100人	交通事故(道路)	移動式クレーンを回送するため、国道を走行中に病気をよる意識障害を起こし、車両ごと道路脇の用水路に転落した。この際運転席に大量の泥が流入したことにより窒息したもの。
	3月	15時台	移動式クレーン	
5	その他の建築工事 (3.2.9)	10～49人	墜落、転落	事業場資材置場に資材の雨よけ小屋を設置する作業中、移動式クレーンで木製パレットとワイヤモッコを組み合わせた搭乗設備で被災者を吊り上げ、アーク溶接しようとしたところ、バランスを崩して地面に墜落したもの。
	3月	16時台	移動式クレーン	
6	木造家屋建築工事業 (3.2.2)	10人未満	墜落、転落	木造平屋の倉庫新築工事にて、コーキング作業の下準備作業中、養生テープを貼るため足場から地面に降りようとしたところ、バランスを崩して、コンクリート面に墜落したもの。
	3月	9時台	足場	
7	造船業 (1.15.1)	100～299人	墜落、転落	船へ荷物を運搬する作業中、岸壁と船にかけてあるタラップから足を踏み外し、海に転落したもの。
	4月	11時台	階段、栈橋	
8	合板製造業 (1-4-2)	100～299人	はさまれ、巻き込まれ	製造ラインにて、機械加工された材料をリフターと呼ばれる装置に積み上げる工程で、一定量重なった材料を送り出す装置付近で頭部から出血し倒れていたもの。
	4月	5時台	動力運搬機	
9	派遣業 (17-1-1)	50～99人	交通事故(道路)	大型バスに乗り合い派遣先に向かうため高速道路を走行中に車両のトラブルにより停車していたところ、後方からトラックが追突したもの。
	5月	20時台	トラック	
10	派遣業 (17-1-1)	50～99人	交通事故(道路)	大型バスに乗り合い派遣先に向かうため高速道路を走行中に車両のトラブルにより停車していたところ、後方からトラックが追突したもの。
	5月	20時台	トラック	

(注)速報をとりまとめたものであり、今後、修正・削除される可能性がある。

令和5年 宮城県内における死亡災害発生の概要

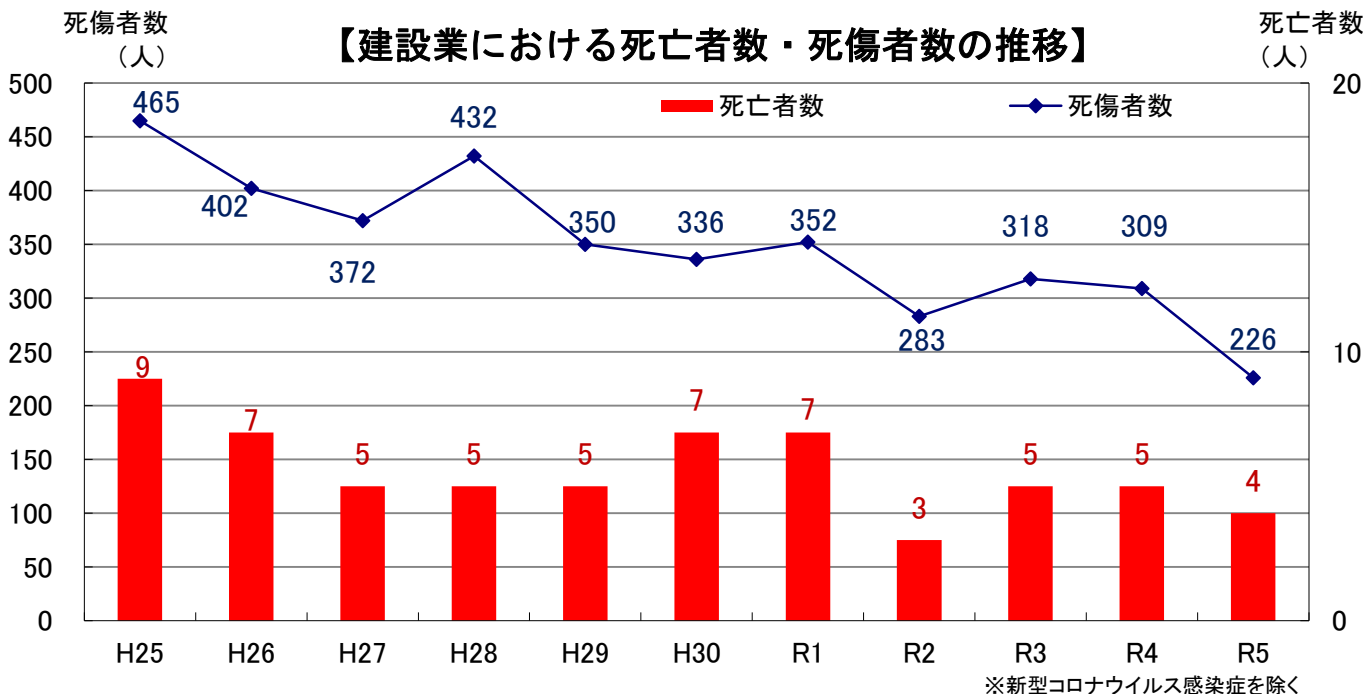
令和5年11月8日 現在速報

番号	業種	労働者数	事故の型	発生状況
	発生日	時間帯	起因物	
11	旅館業 (14-1-1)	10～49人	墜落、転落	8階建てビルの屋上にて設備清掃を行っていたところ、5階屋上に墜落したものの。
	7月	14時台	建築物 構築物等	
12	林業 (6-2-1)	10～49人	激突され	伐木作業にて、チェーンソーで立木Aを伐倒した際に絡んでいたつるで立木Bが引っ張られ、倒れてきた立木Bの下敷きになったものの。
	7月	16時台	立木等	
13	小売業 (8-4-9)	10人未満	高温・低温物 との接触	リサイクル品の回収作業を行った後、作業場に戻り、2回目の休憩を作業場敷地内の日陰となる休憩場所に向かい休憩をとっていたが、休憩時間が過ぎても戻ってこなかったため、様子を見に行ったところ倒れていた被災者を発見したものの。
	7月	10時台	高温・低温 環境	
14	砂利採取業 (2-2-2)	10～49人	はさまれ、 巻き込まれ	被災者と同僚の2名で機械（回転式のふるい）の網の交換作業を終了し両名とも現場を離れた。その後被災者が再び機械に戻り機械内で作業していたことに気づかずに同僚が同機械の電源を入れたため、機械に巻き込まれたものの。
	8月	16時台	動力機械	
15	道路貨物 運送業 (4.3.1)	50～100人	墜落、転落	荷主事業場内駐車場にて、4 t ウイング車から荷の入ったロールボックスパレット3台の荷下ろし準備作業に従事していた被災者が、荷台後方からロールボックスパレットと共に転落し、下敷きになったものの。
	8月	10時台	トラック	
16	港湾荷役業 (5.2.2)	100～299 人	はさまれ、 巻き込まれ	貨物船倉内でバラ荷の集積作業において、ブルドーザーを操縦して山になったバラ荷を山を超えた際、操縦席から振り落とされ、ブルドーザーに轢かれた。
	9月	14時台	建設機械等	
17	その他の商業 (8-4-9)	10人未満	交通事故 (道路)	敷鉄板（1.5×3m）10 t ユニック車に積み込み、事業場に戻る際に対向車と衝突し、約5mのがけ下に墜落した。
	10月	11時代	トラック	
18	電気機械器具 製造業 (1-14-9)	10～49人	墜落・転落	建屋の換気扇移設作業の調査のため、被災者が階段を介して屋根上に登り、換気扇設置箇所へ向かっていたところ、屋根上のスレートを踏み抜き、約6m墜落した。
	10月	13時代	仮設物 構築物等	

(注)速報をとりまとめたものであり、今後、修正・削除される可能性がある。

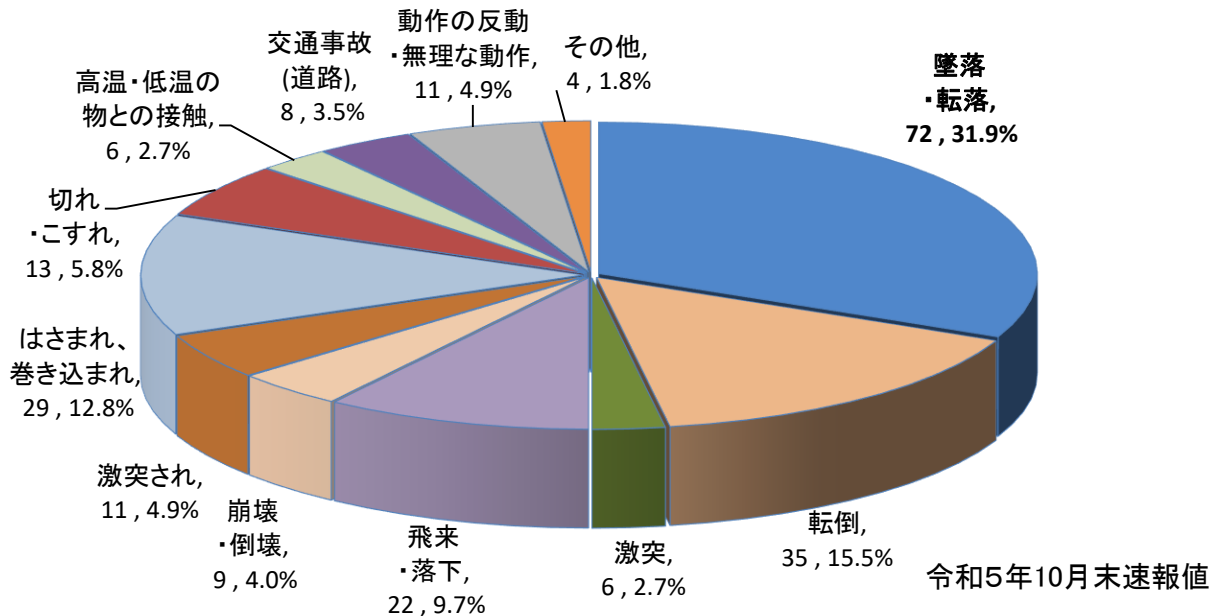
建設業における労働災害状況

* 令和5年10月末速報値による



令和5年10月末時点の速報値によると、令和5年の県内建設業の労働災害による死亡者数は4人、労働災害による休業4日以上死傷者数は226人、前年同期比で、それぞれ1人、11人の減少となっています。

【建設業における事故の型別の状況】



事故の型別では、死亡者は、墜落・転落2人、はさまれ・巻き込まれ1人、交通事故1人であり、死傷者は、墜落・転落72人 (31.9%)、転倒35人 (15.5%)、はさまれ、巻き込まれ29人 (12.8%) であり、建設業においては依然として、墜落・転落災害が最多となっています。また、他の業種と同様、「作業行動に起因した」転倒災害が多くを占めています。